



百物譜

三

遠近  
1835  
9



門八遠13  
1835  
子

近世百物語卷之三目錄



淫樂釀盜賊

農支振士氣

千疊且書字

惡報墮地獄

海氣現蒼樓

人慾天不違

抓先知人意

警者遇固像  
御妖婦得疾  
愚鈍犯逆罪  
幽靈饑爰奴

近世百物語巻之三

淫樂醜盜賊

嘉永二年の冬、盗賊あり、盗而六人、事あり、或は  
淫樂あり、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、  
一、事あり、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、  
の、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、  
若し、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、  
老、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、或は淫、



正徳の遠東より軍女お對死流傳せしむるごとく人の  
あまらるる節きの八條を記すたむる目ど

農事格法

言家格法は流傳の年化下野の農事格法の表  
氏令井他ありし農事ありし給布をもあふ  
同村不和主死とまのあははるなるは正徳世賢  
如曲あてりるもまらるるを他ありし格法を天保十年  
去出有して地政一新ありしを金井平人といふ世賢の日記

五入五人お格とせらるる日年三月の夜早人重たかぬ  
人を招きお格の海島をあらはし早人將言ありし男  
海舟の節格法ありし時年とらるる早人まらるる外  
お格の他ありしが格を伝文同ありし早人お格  
そやちお格とて神とてお格の早人の早人の早人の  
海舟の節格法ありし時年とらるる早人まらるる外  
格法の早ありし時年とらるる早人まらるる外  
云らるる格法は流傳ありし時年とらるる早人まらるる外













ゆゑにうゑのうゑに又あへぬ迎をけの姿のうゑにその  
若おの事記ののちうけ後事をさうし古語をさく  
係ふその事さうを力に持たせし御の者十は五人  
が似し神也のさめをさうしあはれ事の昔はあはれび  
て格置左あはれさの事終りて後少あはれゆれば  
あはれその事をつらぬ事あはれさあはれさのさうし

後必過

三つが十ねつさ

照

カたち

根

十九名

雲

水雲の事所云云あり

筆

長言月方終りの月終

子雲の事

なり

西報漢地概

天保二年壬辰四月廿八日 小島海を果と云  
高申の事ありて是事あはれ事のさうしあはれ事なりが  
よく事ありて是事あはれ事のさうしあはれ事なり

たゞ男行らばあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
一罪ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
若しといふ事ありては我は老人の賊をたづなり  
いふ事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
そとにれりハ世をたづなりては我は老人の賊をたづなり  
女もたづなりてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
田向してありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
おとす事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり

若しあづかりし事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
まゆふ回と多そとてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
らあづかりし事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
防まわつてはあづかりし事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
と云ふ事ありてはあづかりし事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
夫婦の老しはあづかりし事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
やあづかりし事ありてはあづかりし事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり  
あづかりし事ありてはあづかりし事ありてはあづかりし事ありては我は老人の賊をたづなり



此の邦竹多々ありて事ありて終つて并志とて  
中ノ山等の東は是を所とす十二年以前のもの

海氣現登樓

登氣樓と云物西國にては是れと云物と云人  
中一節も不伝と云物高の海の中へ登氣樓と云と  
是を考あつと伝道する後不伝と云物傳らる  
登氣樓は諸邦ありて其州名ありて其ノモリと云  
是州は持てはるる前々は自づけて其氣明湖の

あはる由現りて其好事家の道ありてはるるを登氣州  
中ノ山等の西國の後海不屏風を云とてはるる如くありて  
の形を以て是を道と云と云物又西國の登氣  
樓は塔なり氣を以てするは樓閣相承ありて是れ其  
月を不登入水中なる登氣と云の登氣を考とて其の  
國を西出や中絶の地也るは不坂由都と云は地  
絶不地や事と云物其地は地の高ありて一云より大  
吟と登氣と云一名二物ありて西國の國不絶形の物





余が東事の途ふゆに訪れり中山大師龜山  
昔て家鴨を飼養す下木物を擧げし物  
家鴨の雛を不化てありし家の下の木をてぬる  
子家鴨は自らの雛をとりひくやその暇ありて  
病をそとせたり此を養ふ道に拂ふ物とて  
又化ありて子孫をむかひし物と化るる物  
のら物。何の善をあらはるものぞ

暫者過周像

余が東の事とぬるの暇に梅雨ありし代と云  
暫女ありしは女家のぬる節ありし物途を留  
のよの方眼をてて甚る井の口の梅流の池あり海を記  
おありしふふ女をてて斗の暮て出しし海をたよるは  
あ暫女遊をそり船をて出流に居しふとぬくあり  
物言やえその中ふは節を被るむしやえなればは海上  
流りの梅の記ありし物と記ありし物と向きし物  
物言やえしとありし物と記ありし物と記ありし物と

















